

2022 年度 神奈川県感染症発生動向調査解析委員会報告

2023 年 2 月 17 日（水）開催

〔出席委員〕

委員長	森 雅亮	（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座 教授）
副委員長	清水 博之	（藤沢市民病院 臨床検査科部長・感染対策室長）
委員	今川 智之	（神奈川県立こども医療センター感染免疫科部長）
委員	岡部 信彦	（川崎市健康安全研究所長）
委員	片山 文彦	（小児科内科落合医院院長）
委員	木村 博和	（横浜市金沢福祉保健センター長） 欠席
	横山 涼子	（横浜市健康福祉局衛生研究所感染症・疫学情報課 担当部長）木村委員の代理出席
委員	笹生 正人	（笹生循環器クリニック院長 神奈川県医師会理事）
委員	鈴木 仁一	（相模原市保健所長）
委員	横田 俊一郎	（横田小児科医院院長）

〔オブザーバー〕

佐々木 つぐ巳（神奈川県厚木保健福祉事務所長） 欠席

多屋 馨子（神奈川県衛生研究所長）

横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課、川崎市健康福祉局保健所感染症対策課、川崎市健康安全研究所感染症情報センター、相模原市健康福祉局保健所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康部保健所保健予防課、藤沢市保健所保健予防課、茅ヶ崎市保健所保健予防課感染症発生動向調査担当

議題

（1）2022 年の感染症発生動向調査及び病原微生物検出状況について

- ・全数把握対象疾患報告数
- ・定点把握対象疾患週別報告数推移
- ・病原微生物検出状況
- ・神奈川県衛生研究所における病原体検出状況（2022 年 1 月～12 月）

（2）2022 年に話題となった感染症について

- ・梅毒の県内発生動向について
- ・新型コロナウイルス感染症について
- ・新型コロナウイルス感染症 HER-SYS への重複登録の状況について
- ・最近の話題について（県内の新型コロナウイルスの流行状況等）

（3）その他

- ・新型コロナウイルス感染症 国の状況等について
- ・予防接種等について

(1) 2022 年の感染症発生動向調査及び病原微生物検出状況について

○ 全数把握対象疾患報告数(資料 1-1、1-2)

- ・全数把握対象疾患を新型コロナウイルス感染症流行前後で比較すると、累積報告数は、2021 年 2,387 件、2022 年 2,468 件であり、2019 年に比べ減少した。疾患別で見ると、特にデング熱等の輸入感染症、百日咳、風しん、麻しんで大幅に減少した。一方、腸管出血性大腸菌感染症、E 型肝炎、梅毒は 2020 年には減少したが、その後は増加し、2019 年よりも多くなった。

○ 定点把握対象疾患週別報告推移(資料 2)

- ・インフルエンザは、2022 年 50 週に定点当たり報告数が 1 を上回り流行の開始となったが、2022 年 52 週の時点では注意報レベルの 10 には達しなかった。
- ・RS ウイルス感染症は、2022 年は 28 週から 31 週あたりをピークとする流行がみられたが、2021 年に比べて小さかった。
- ・手足口病は、2021 年夏の報告はほとんどなかったが、2022 年は例年通り夏に流行があった。ヘルパンギーナも同様に夏の流行がみられた。

○ 病原体微生物検出状況 (2022 年 1 月～11 月)

- ・病原細菌検出状況 (月別) は、2021 年の検出数に比べ、2022 年は 11 月までの集計にもかかわらず増加した。検出病原体は、ウェルシュ菌、その他の大腸菌、腸管出血性大腸菌、カンピロバクター・ジェジュニの順に多かった。
- ・ウイルス・リケッチア検出状況は、2021 年の検出数に比べ、2022 年は 11 月までの集計にもかかわらず増加した。検出病原体は、SARS-CoV-2 が 1,805 件と最も多く、次いでコクサッキー A6 型 36 件であった。

○ 神奈川県衛生研究所における病原体検出状況 (2022 年 1 月～12 月)

1. 定点把握疾患における病原体検出状況 (神奈川県、茅ヶ崎市、藤沢市)

- ・2022 年の病原体検出状況は、殆どの病原体において 2021 年より増加傾向であった。
- ・インフルエンザは、7 症例中 5 症例から検出され全て AH3 亜型であった。
- ・手足口病は非常に増加しており、47 症例中 40 症例からコクサッキーウイルス A6、ヒトライノウイルス、パレコウイルス A1、A3 が検出されている。
- ・RS ウイルス感染症患者からは、3 症例中 2 症例から RS ウイルスが検出された。
- ・感染性胃腸炎では、ノロウイルス、サポウイルス、アデノウイルス、アストロウイルスが検出された。
- ・無菌性髄膜炎では、13 症例中 9 症例からパレコウイルス A1、ヒトライノウイルス、ヒトヘルペスウイルス 3 (水痘帯状疱疹ウイルス)、ヒトヘルペスウイルス 7、Epstein-Barr ウイルス、SARS-CoV-2、ムンプスウイルスのワクチン株(星野株)なども検出された。
- ・細菌感染症は、感染性胃腸炎患者から下痢原性大腸菌、カンピロバクターが、A 群溶血性レンサ球菌感

染症患者から T-B3264 型の A 群溶血性レンサ球菌が、レジオネラ症患者からレジオネラ ニューモフィラが検出された。

2. 全数把握疾患の病原体検出状況

- ・ E型肝炎は、2022 年は 67 人の報告があったが、当所への検体搬入は 1 例で陰性であった。
- ・ つつが虫病は、症例数、検出数とも増加しており、16 症例中 12 症例から川崎株、または Kuroki 株が検出されている。
- ・ 急性脳炎については、当所では 5 症例のうち 2 症例（3 検体）から 3 種類のウイルスが検出された。その内訳は、1 例目は便よりパレコウイルス A1 型、2 例目は血清からヒトヘルペスウイルス 6、咽頭ぬぐい液からヒトヘルペスウイルス 7 の同時検出例であった。
- ・ 梅毒は、激増している。スクリーニング検査では、検査数 450 件中、陽性が 23 件、陽性率としても上昇している。
- ・ HIV は、検査の実施状況が縮小しているため報告数としては減少しているが、スクリーニング検査陽性数としては 5 件、その後の確認検査でも 4 件が陽性となっており、確認検査の陽性率としては変わらない状況を維持している。

（2）2022 年に話題となった感染症について

○梅毒の県内発生動向について

- ・ 県内梅毒報告数の推移は、2018 年まで増加を続けていた報告数が、2019 年、2020 年と減少に転じたが、2021 年は再び増加し、2022 年はさらに増加している。全数に占める女性の割合はここ数年、3 割程度となっている。
- ・ 年齢別では、男性は 20 代から 40 代を中心に幅広い世代に広がりがみられた。一方、女性は 20 代が圧倒的に多く、30 代、40 代が続いている。
- ・ 病型別では、男性は早期顕症梅毒で発見されるのが 8 割を超え、I 期で発見されるものが 5 割を超えている。一方、女性は早期顕症梅毒で発見されるものが 6 割を超えているものの、II 期で発見されるものが 4 割を超えている。また、女性のほうが男性よりも無症状で発見される割合が高くなっている。
- ・ 男性では性風俗利用歴有りの割合が 2019 年から 2022 年では 2022 年が最も高くなっている。女性では 2021 年は性風俗従事歴有りの割合が高くなっていたが、2022 年は減少して、例年並みであった。

○新型コロナウイルス感染症について

注：公表日に基づく集計

- ・ 2020 年 4 月から 2023 年 1 月 4 日までの神奈川県の新型コロナウイルス感染症の日別報告数と移動平均の動向について報告する。
- ・ 2022 年初めに神奈川県内でもオミクロン株が初めて確認され、急速に感染者数が増加し、第 6 波となった。それ以前に比べ流行の波は大きく、ピーク時には 1 日の報告数が 9,000 人を超えた。その後 6 月までは減少を続け、1 日 700 人程度まで減少した。
- ・ 7 月から再び増加し始め、第 7 波となり、7 月末のピーク時には 1 日の報告数が 16,000 人を超えた。当所のモニタリングにより、この時期は BA5.1, BA5.2 が主流であったと考えられる。その後 10 月に 1 日 1,000 人程度まで減少した。

- ・10月下旬から再び増加を始め、第8波で2022年末のピーク時には1日12,000人を超えた。
- ・移動平均は、神奈川県、東京都と比較すると、類似の傾向で推移していることが分かった。
- ・2020年から2022年までの神奈川県の新型コロナウイルス感染症についてまとめたところ、2022年は大幅な増加が認められた。
- ・2022年9月26日からサーベイランスの方法が変更となった。そのため、期間毎の比較をすることは困難であるが、年齢群別では、2022年1月3日から9月26日までの累計では20歳代が最も多かった。一方、2022年9月27日から2023年1月1日の累計では10歳代が最も多く、次いで10歳未満が多くなっていた。また、9月27日以降は高齢者の割合が高くなっていた。

○新型コロナウイルス感染症 HER-SYS への重複登録の状況について

注：医療機関からの報告日に基づく集計

- ・データ精度管理を目的として、県医療危機対策本部室および県内各保健福祉事務所等の協力のもと、HER-SYSの重複登録を確認し、関係所属への連絡を行い重複登録の解消を行った。
- ・2022年第14週から第52週までの重複登録の状況をまとめた。令和4年9月に全数報告の対象が4類型に変更されたことに伴い、「重複登録件数と県新規感染者数との比較」を行ったところ、変更前（第14週から第38週の9月25日まで）の「重複登録件数」の推移は、「神奈川県の新規感染者数」の発生と同様の傾向を示していたが、変更後（9月26日以降）の「重複登録件数」は「新規感染者数」とは異なり全体的に発生が少なくなっていた。
- ・「二重登録のパターン別推移とパターン別割合」は、重複の傾向から6つのパターンに分類してパターン別推移および割合を集計した。集計期間の全期間で重複登録が多く見られた重複パターンは、患者が異なる2つ以上の医療機関を受診し、医療機関Aで直接HER-SYSへ登録し、医療機関BからFAXで提出された発生届を管轄保健所またはその代行入力者がHER-SYSへ登録という形で重複登録となるパターンであり、二重登録のうち54%を占めていた。
- ・患者が1医療機関を受診し重複が発生する割合が21%である一方、2つ以上の医療機関を受診し重複が発生するパターンは79%を占めており、多くが2つ以上の医療機関を受診した場合の発生であることが示された。

○最近の話題について（県内の新型コロナウイルス感染症の流行状況等）

- ・神奈川県内の新型コロナウイルス陽性者数の推移をみると、第1波、第2波に比べて第7波、第8波は大きい流行となった。感染者数に比して重症者数、死亡数が多い第3波と比較するとオミクロンが流行の中心であった第6波、第7波では、重症化率は低かった。
- ・神奈川県衛生研究所では、第7波以降、変異株モニタリングを医療危機対策本部室と共同して実施している。重症例は県内4定点から随時、13定点医療機関からは定期的に、陽性者の検体を収集し次世代シーケンサーでフルゲノム解析を実施している。
- ・変異系統の推移をみると、第6波以降は、すべてオミクロンであり、その中でもBA.5、5.1や5.2が多いことが分かる。BF（BA.5からの孫系統にあたる）は、2022年の夏頃から少しずつ出現し、増加傾向にあり、2023年2月17日現在主流となっている。
- ・市中の陽性検体のモニタリングと、重症例のモニタリングの変異系統の割合に大きな差異はなかった。

BA.5 と BF 系統がほとんどを占めており、重症化例に特異的な変異系統はみられなかった。

- ・ 県域では、7 月のモニタリング開始時から 12 月中旬までのデータで 46 種の変異系統が検出されており、全体的に BA.5 と BF が多く、BA2.75、BQ 或いは XBB などの変異系統は多くなかった。
- ・ 今年の感染症の流行状況については、感染性胃腸炎（ノロウイルス）は例年と比較して減少している。ヘルパンギーナは、激減しているが、手足口病は増加している。梅毒の報告数は大きく増加した。
- ・ インフルエンザは 2 月初旬から定点あたり 10 を超え、注意報レベルになっており、全国平均と同レベルである。全国的には、沖縄が目立って高いが、その他は関西エリアの流行が大きく、そこから北陸に広がっている。

（3）その他

- ・ [情報交換] 新型コロナウイルス感染症に関する国の状況等について情報提供があった。
予防接種については、新型コロナウイルス感染症、麻しん、風しん、HPV 等の情報提供があり、現在の状況について情報交換を行った。

以 上

全数把握疾患保健所別累積報告数

【令和5（2023）年 2月7日現在 感染症発生動向調査による】

	総計	二類	三類感染症			四類感染症										五類感染症																					
		結核	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	エムポックス（サル痘）	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ボツリヌス症	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
2021年総数	2387	1103	254			62	4	1		17	2		1		108		58	17	123	1	17	7	40	67	3	12	91	18	336	12	5		1	26	1		
2022年総数	2468	1015	222	1	1	67	8		1*	26	7	3		1	116	1	39	20	123	4	27	12	57	38		13	82	29	519	8	3	2	19	1	1	2	
横浜市	990	406	105		1	30	4			1	3	2		1	41		19	9	56		2	5	27	16		3	36	13	195	4	2	2	5		1	1	
川崎市	496	204	41			17	4			1	2				21	1	3	4	27	3	12	3	5	12		2	14	5	109				5			1	
相模原市	181	72	25			6				2					10		4	4	14		5		1	2		1	6	1	25	1			2				
県域	800	333	51	1		14				22	2	1			44		13	3	26	1	8	4	24	8		7	26	10	190	3	1		7	1			
横須賀市	95	37	5			3									6				3				7	2		1	7		20	1			3				
藤沢市	126	36	15			3									4		2		10		5		6	1			1	1	41	1							
茅ヶ崎市	44	23													1		1	1	1			1							16								
平塚	66	24	3			1									3		2		1			1	4	1		1	4	1	20								
秦野センター	111	44	8			1				6					10		1		6	1			3	4		4	2	5	16								
鎌倉	69	36	2			3									12							1	1				6	1	6		1						
三崎センター	7	6																											1								
小田原	72	31	10							7	2	1			1				3		3							2	12								
足柄上センター	25	8	2							8					2		1		2							1			1								
厚木	120	56	6			2				1					3		3					1	3				3		40	1				1			
大和センター	65	32		1		1									2		3	2									3		17				4				

※令和5年5月26日よりサル痘はエムポックスに、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症はカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に名称が変更になっています。

※エムポックスについては神奈川県では内訳を記載しないこととしています。

全数把握疾患報告年別累積報告数（2019年～2022年）

【令和5（2023）年 2月7日現在 感染症発生動向調査による】

	総計	二類	三類感染症						四類感染症										五類感染症																					
		結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	エムポックス（サル痘）	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ボツリヌス症	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻疹	薬剤耐性アシネトバクター感染症
2019年総数	4039	1485	1	3	189	6	2	49	41		1		21	36			6	152		81	20	207	3	65	11	71	71	3	38	6	207	41	273	12	3	2	548	291	94	
2020年総数	2359	1163		3	173	1	1	39	7	1			29	1			3	113	1	54	17	122	2	32	4	49	65	2	22		104	27	222	5	5	7	75	9	1	
2021年総数	2387	1103			254			62	4	1			17	2		1		108		58	17	123	1	17	7	40	67	3	12		91	18	336	12	5	1	26	1		
2022年総数	2468	1015			222	1	1	67	8		1	26	7	3		1	116	1	39	20	123	4	27	12	57	38		13		82	29	519	8	3	2	19	1	1	2	

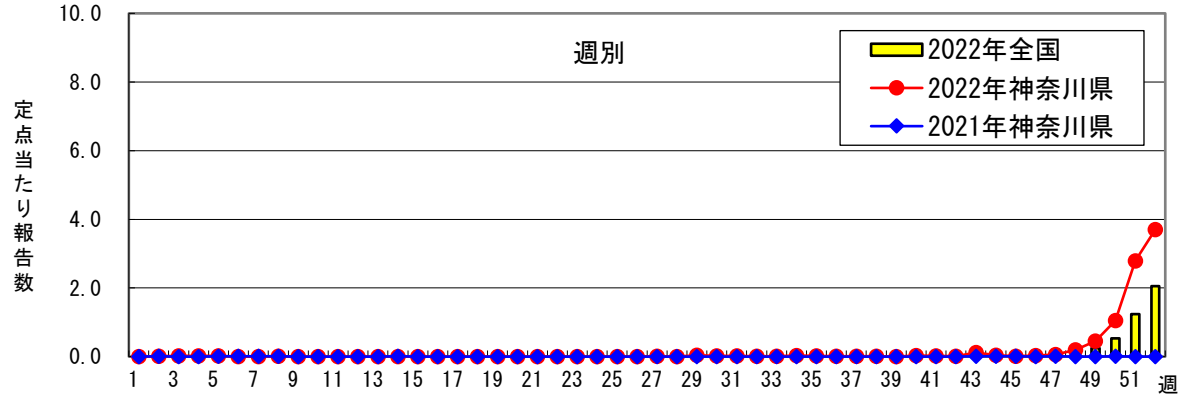
※令和5年5月26日よりサル痘はエムボックスに、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症はカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に名称が変更になっています。

定点把握対象疾患週別報告数推移

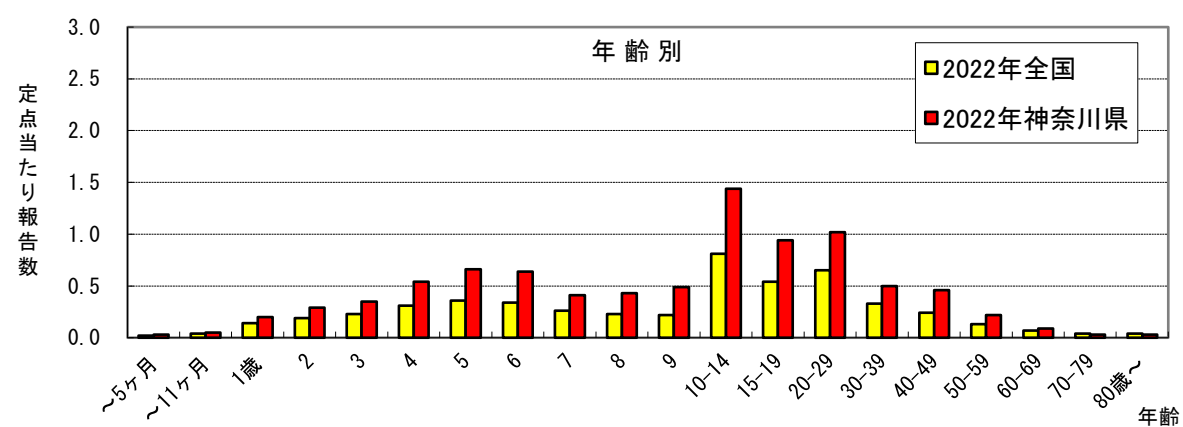
(2022年 2月7日現在 感染症発生動向調査による)

【インフルエンザ】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

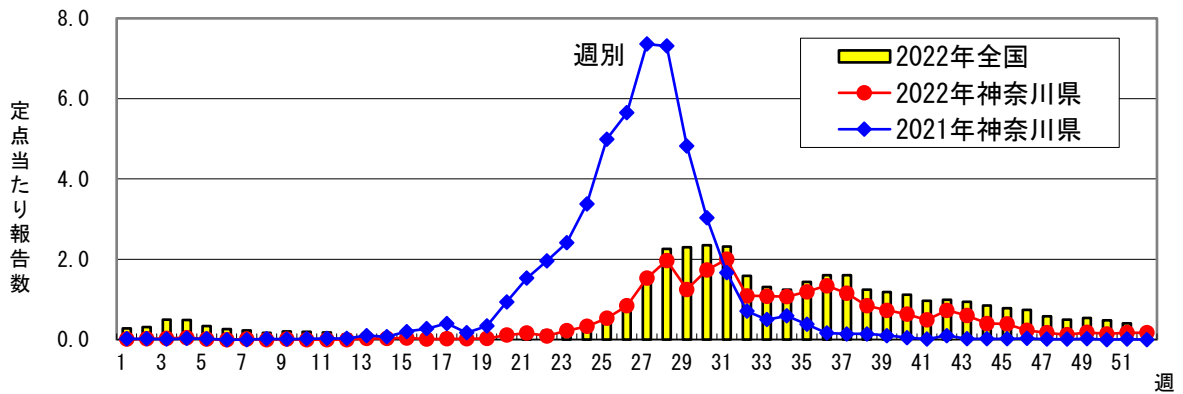


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

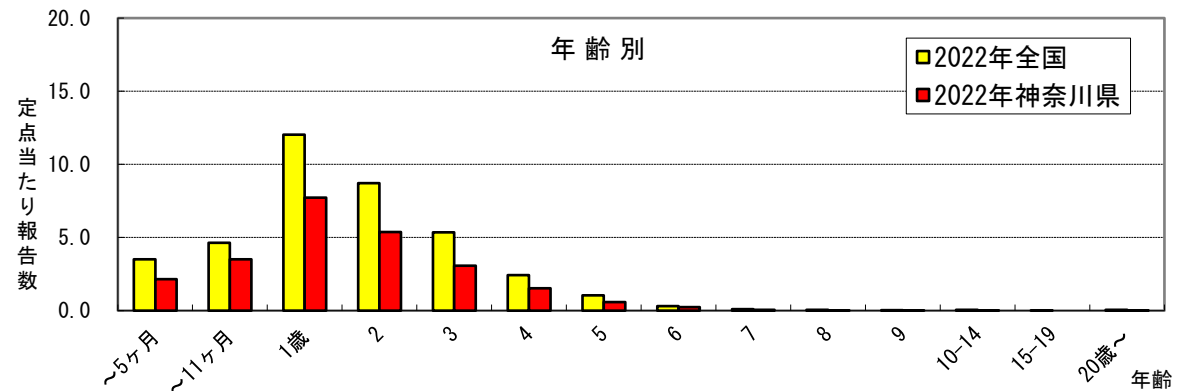


【RSウイルス感染症】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

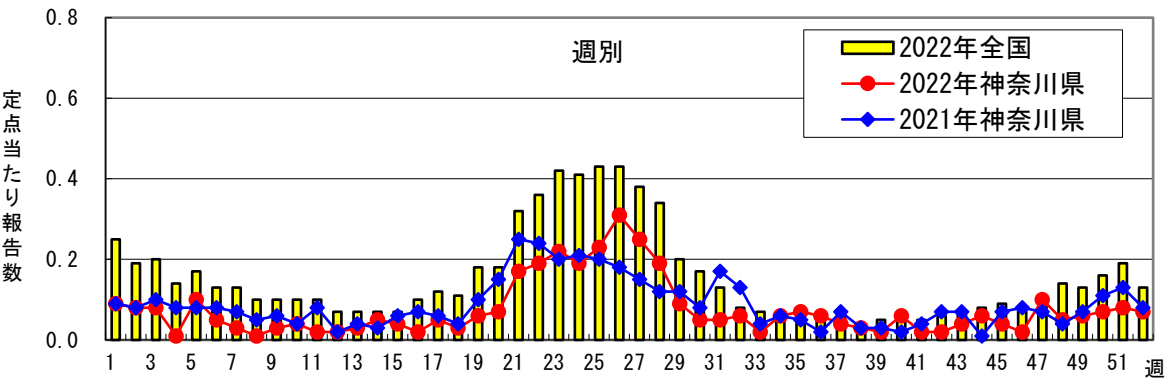


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

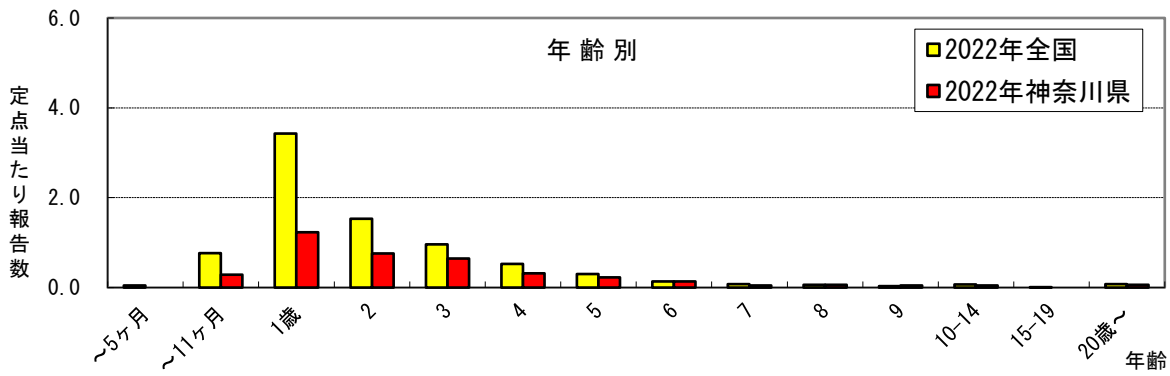


【咽頭結膜熱】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

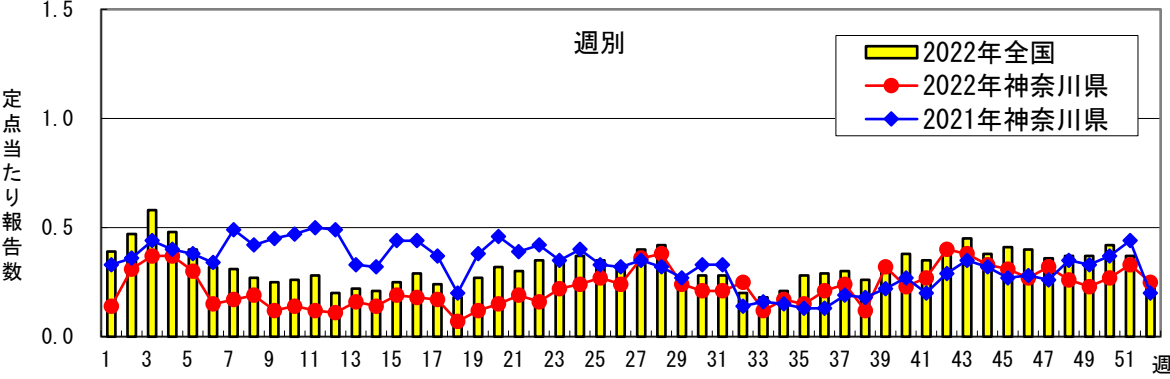


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

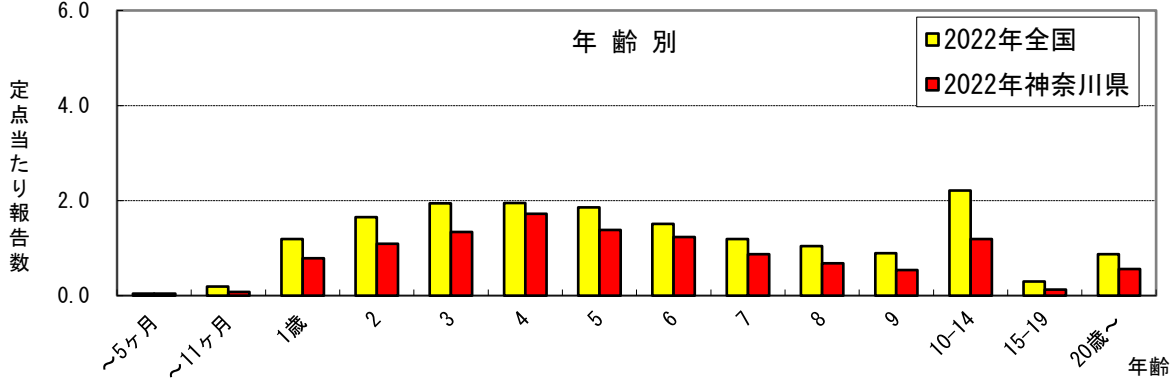


【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

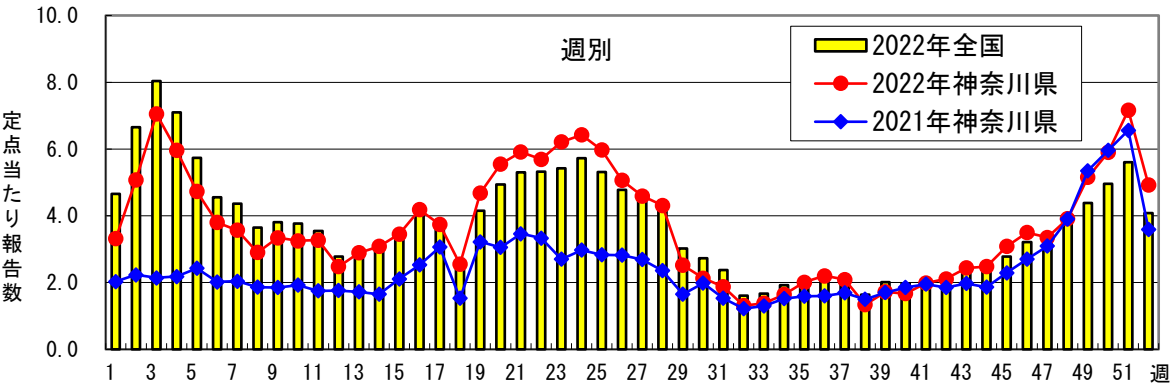


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

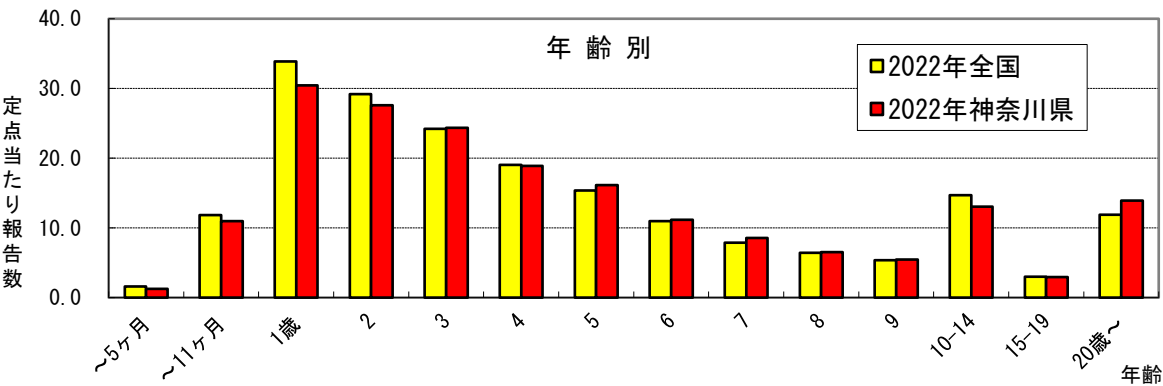


【感染性胃腸炎】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

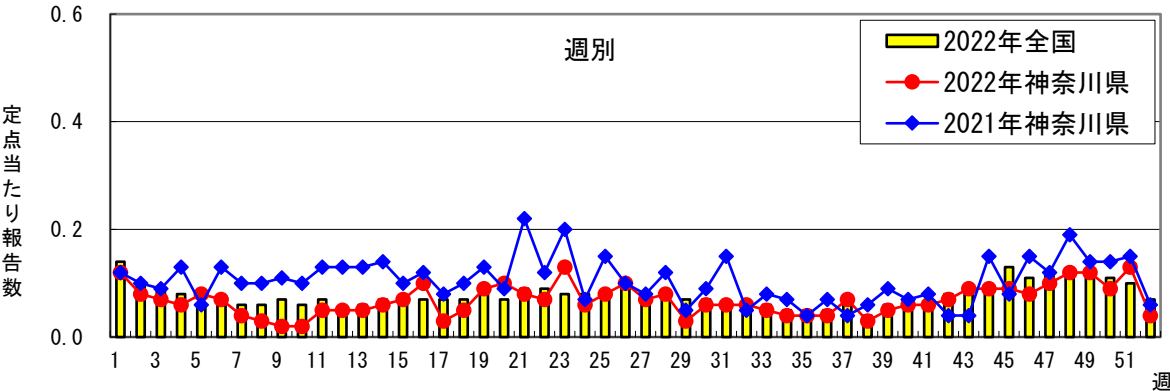


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

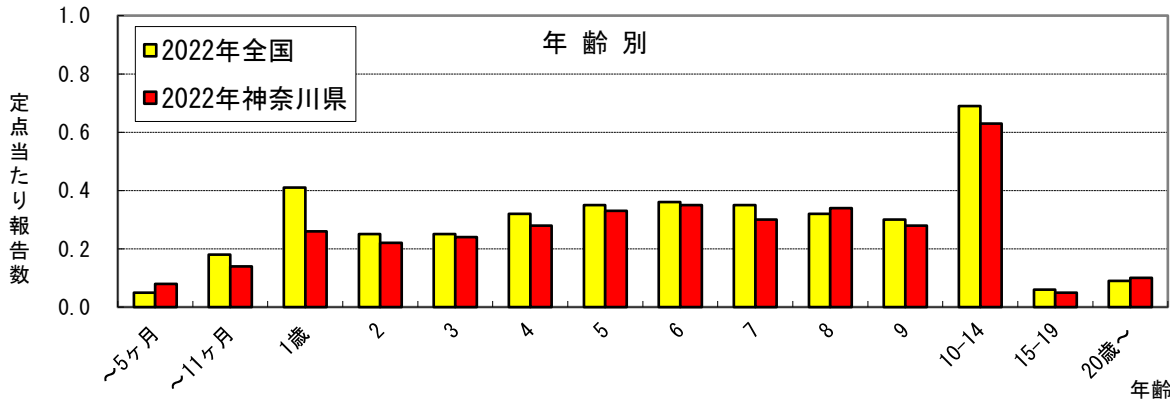


【水痘】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

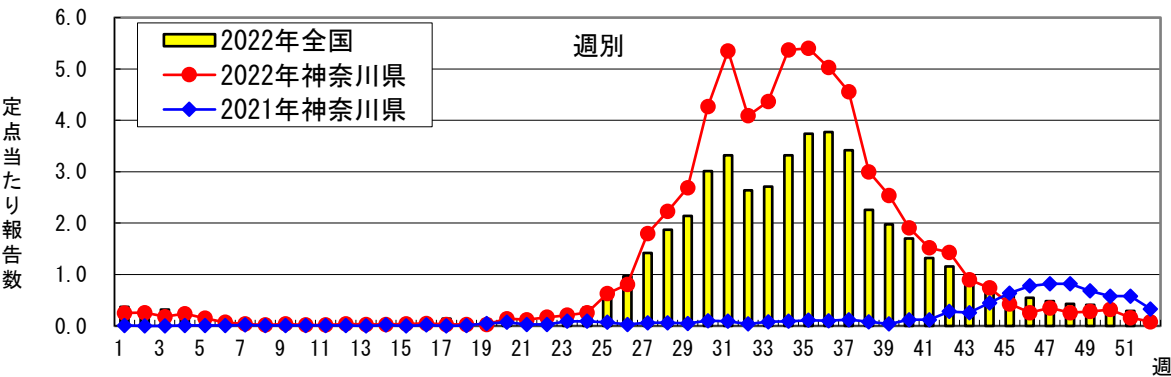


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

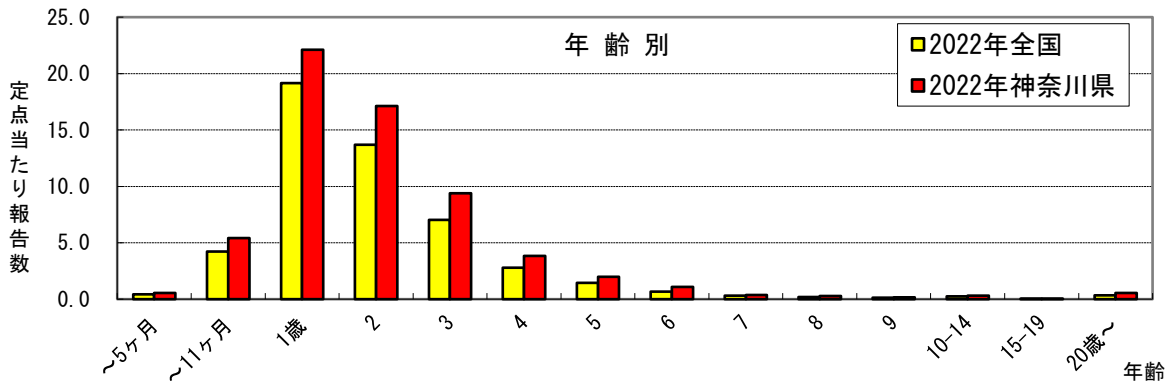


【手足口病】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

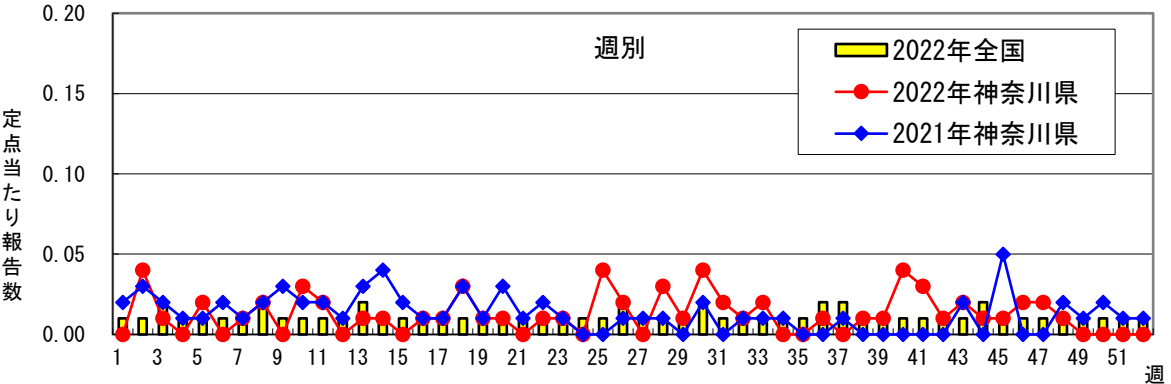


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

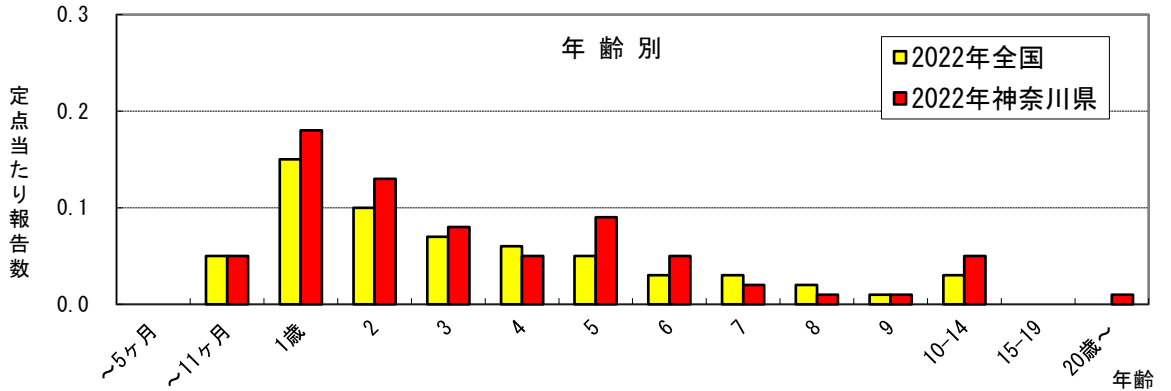


【伝染性紅斑】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

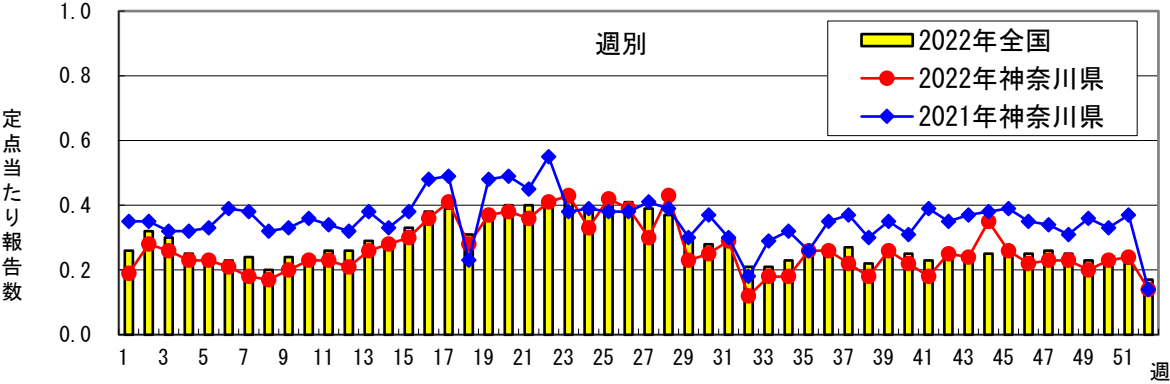


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

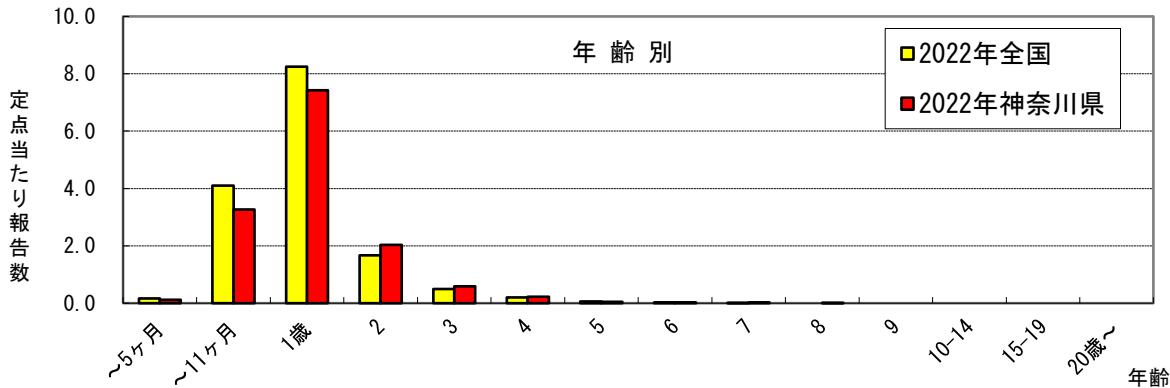


【突発性発しん】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

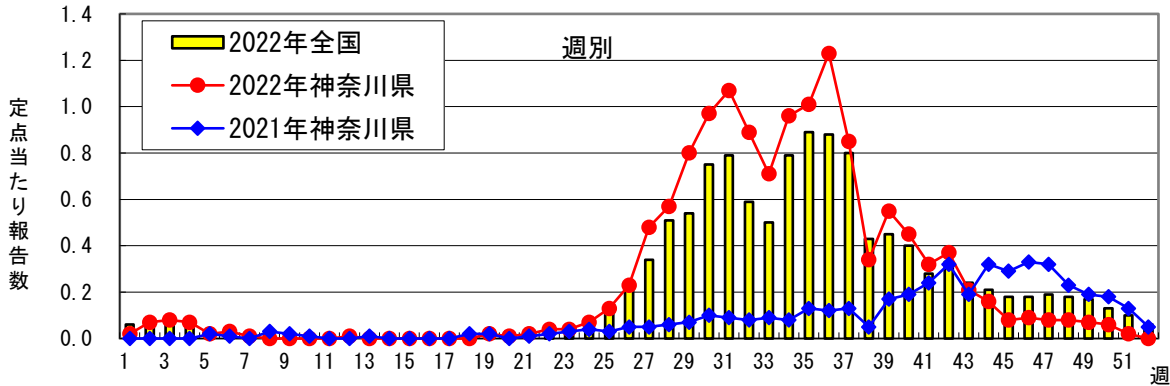


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

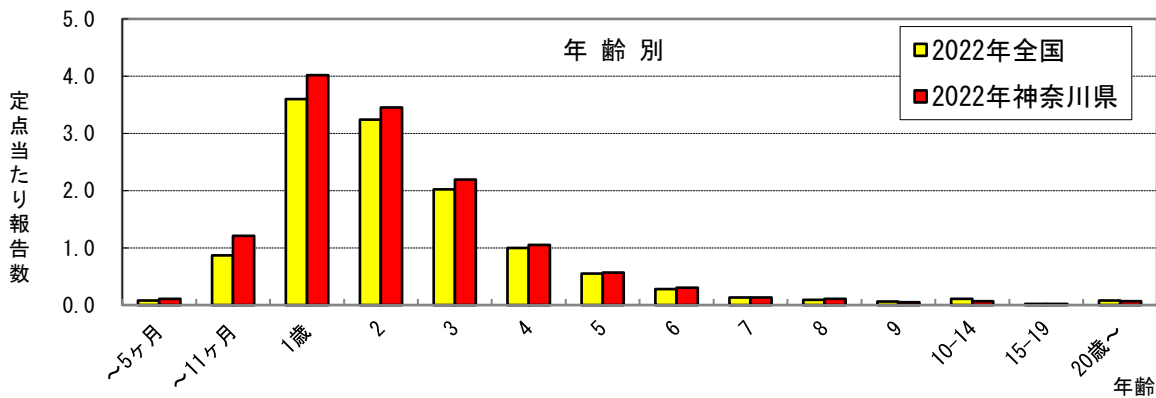


【ヘルパンギーナ】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

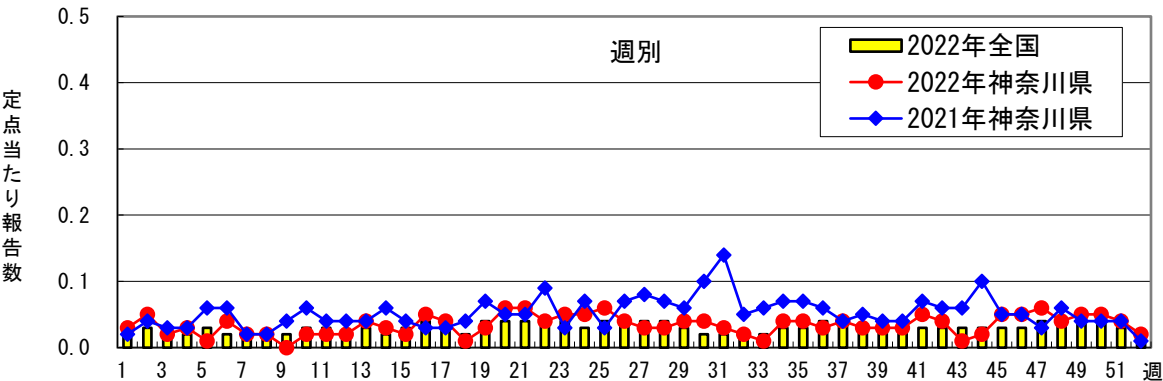


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

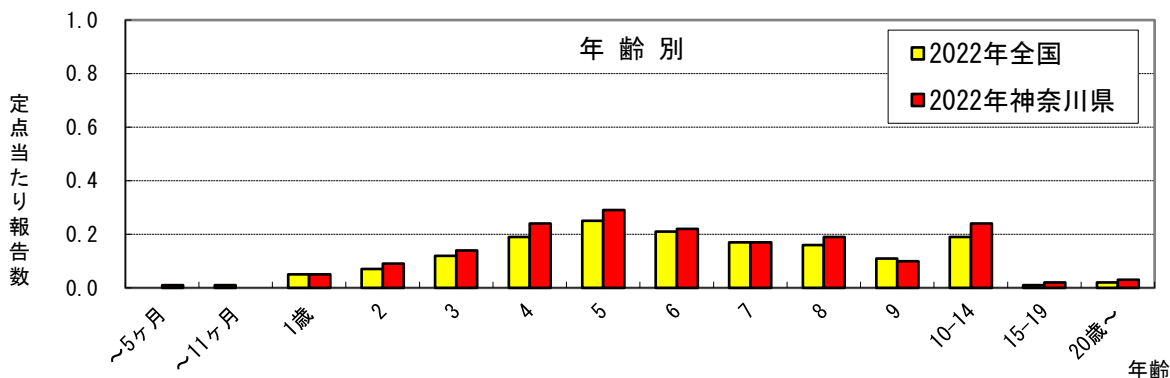


【流行性耳下腺炎】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

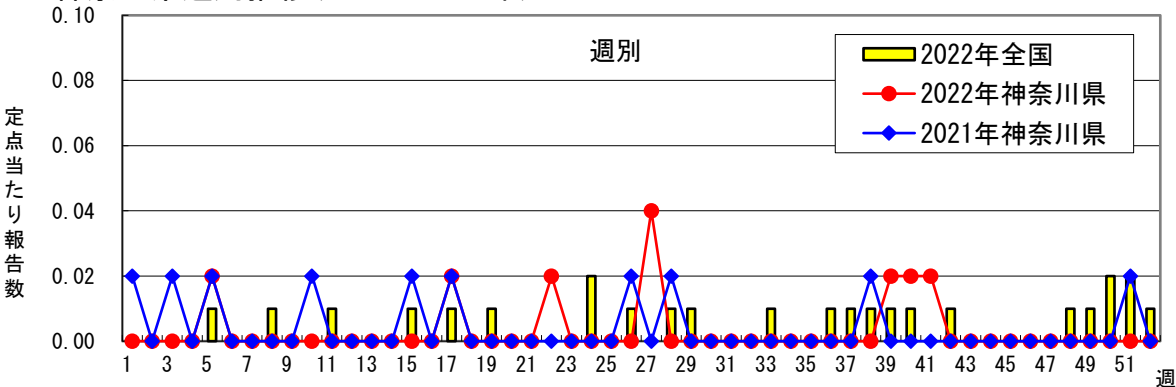


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

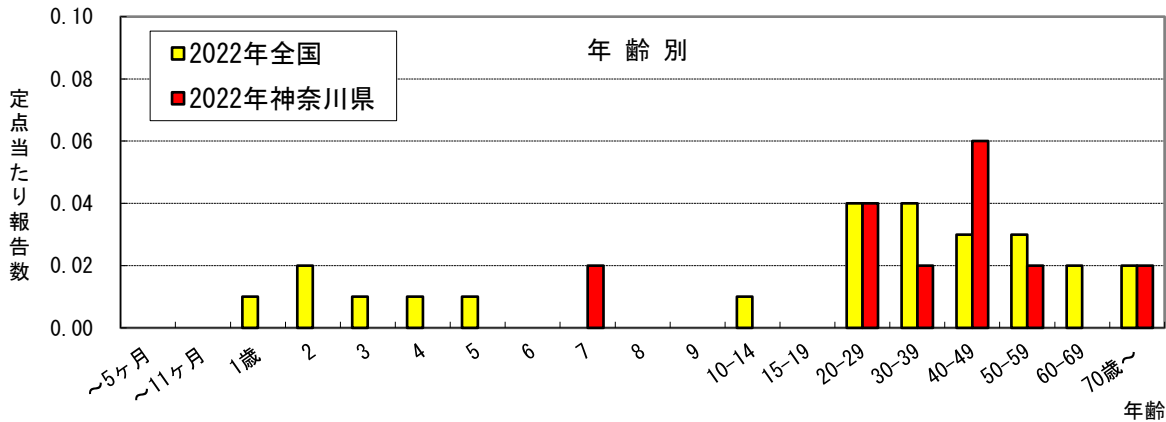


【急性出血性結膜炎】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

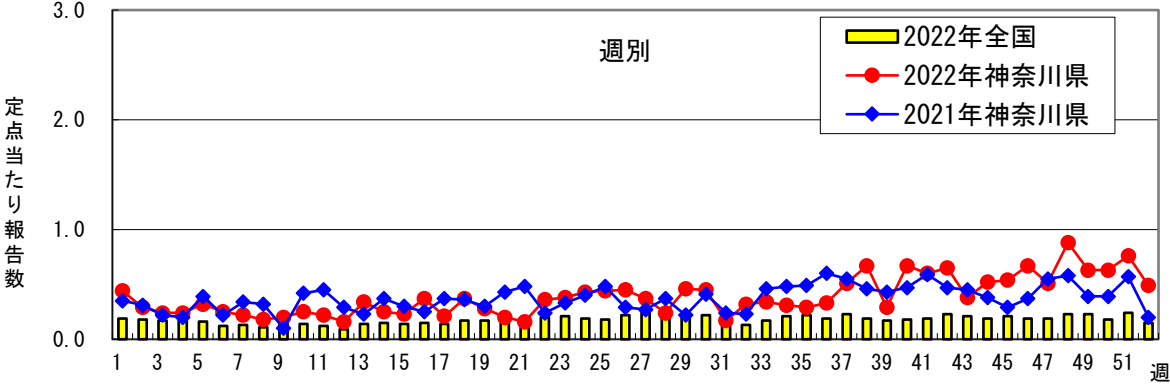


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

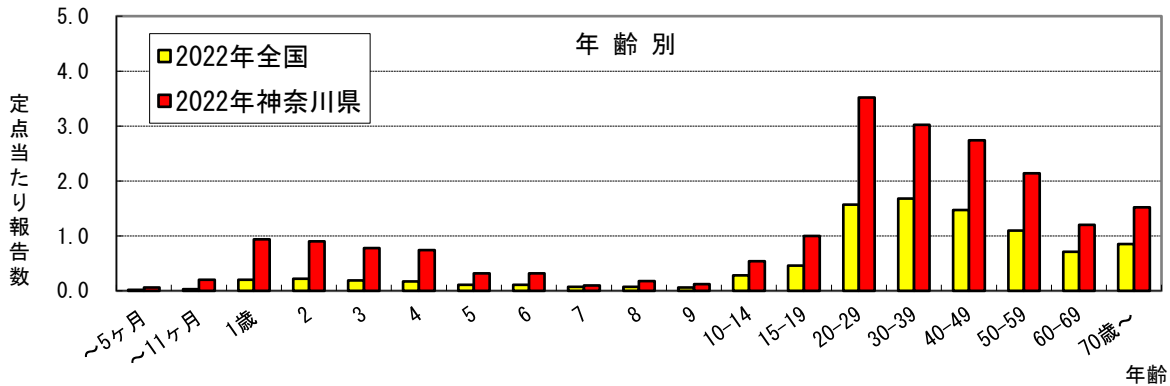


【流行性角結膜炎】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

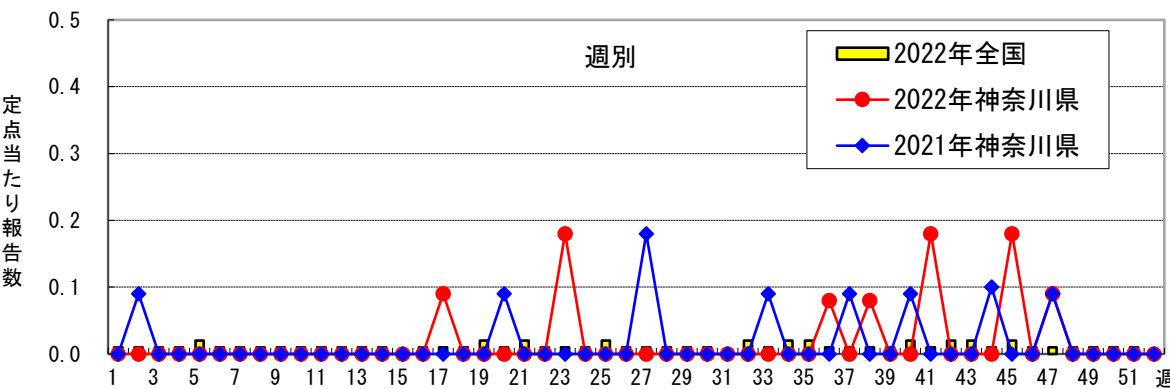


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

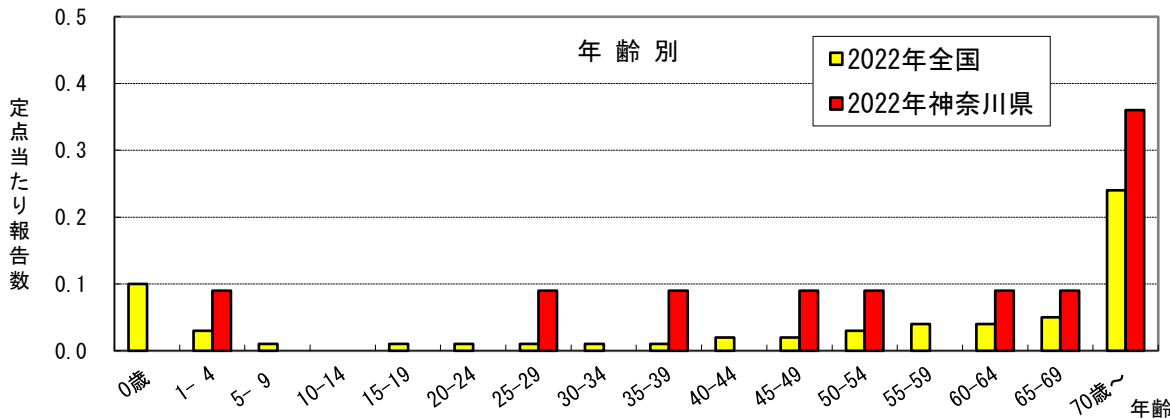


【細菌性髄膜炎】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

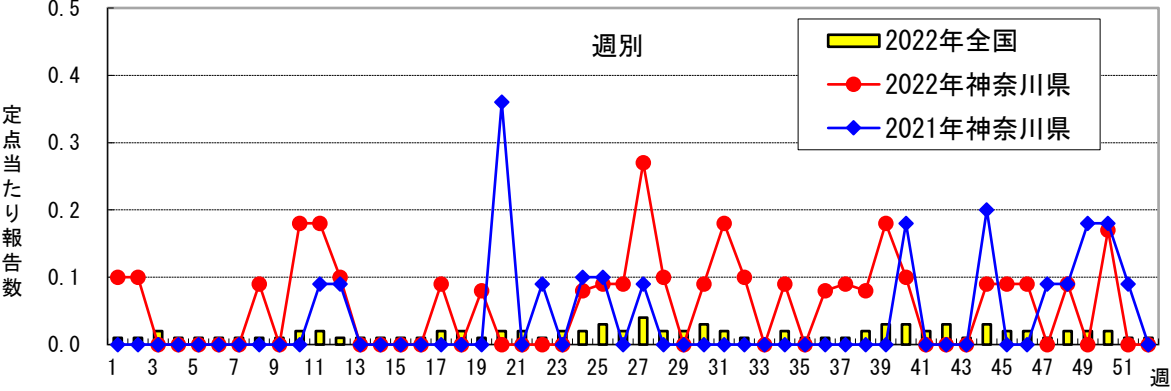


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

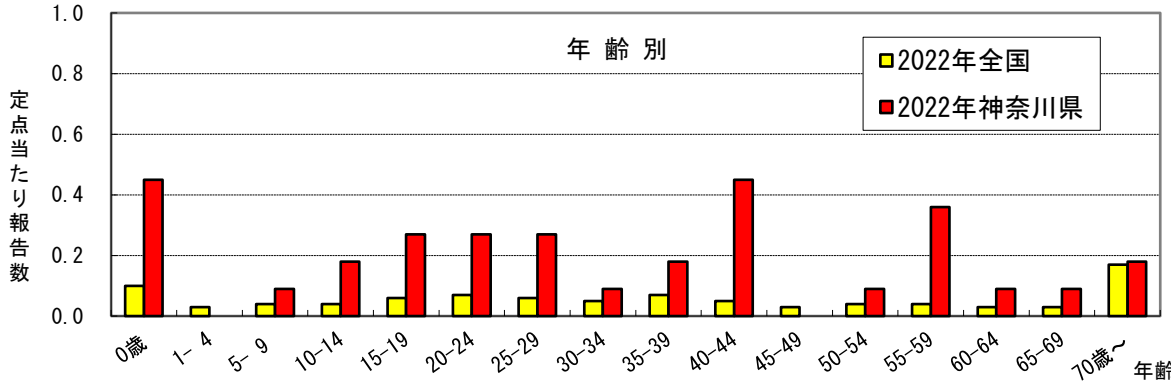


【無菌性髄膜炎】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

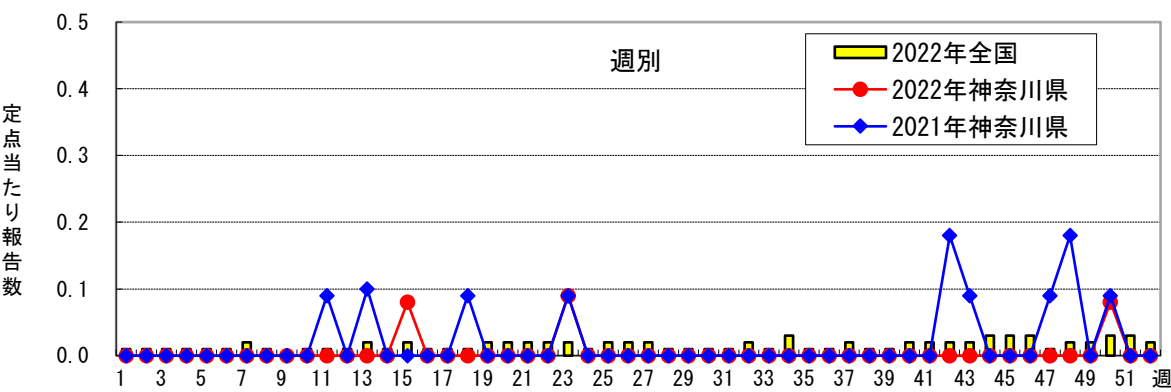


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

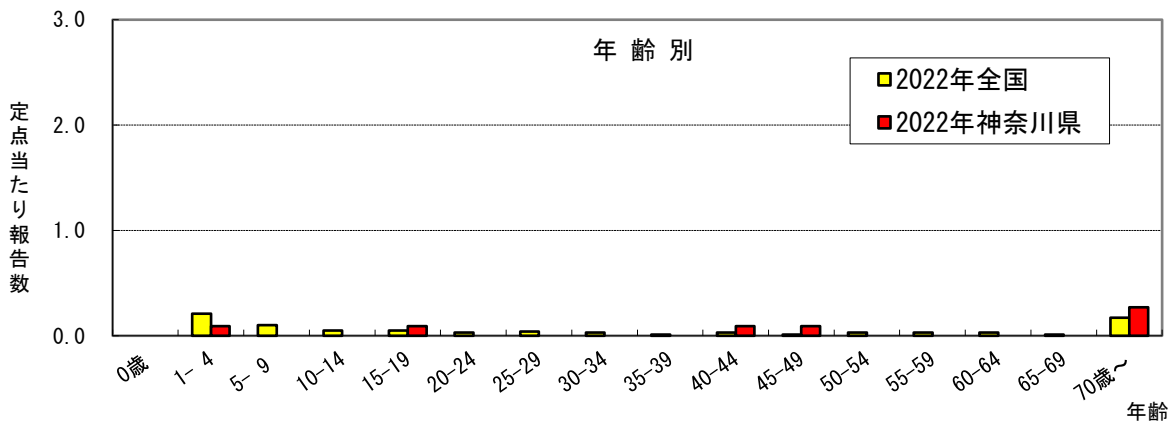


【マイコプラズマ肺炎】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

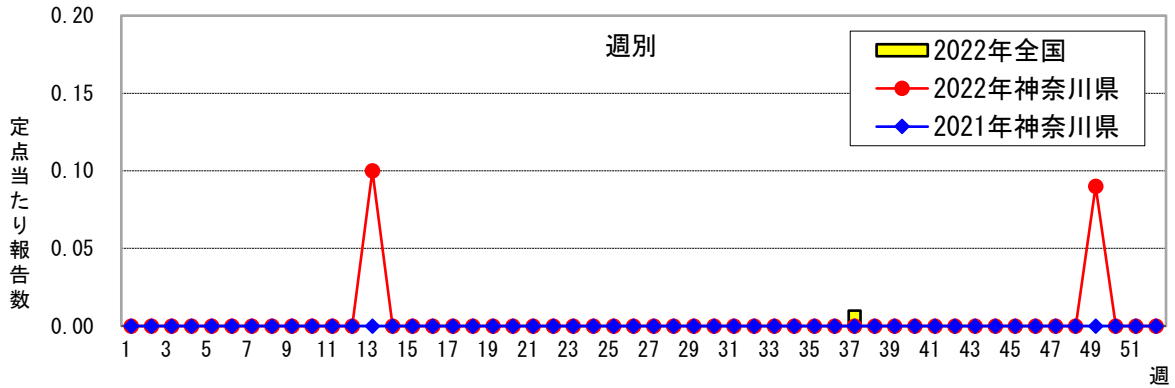


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

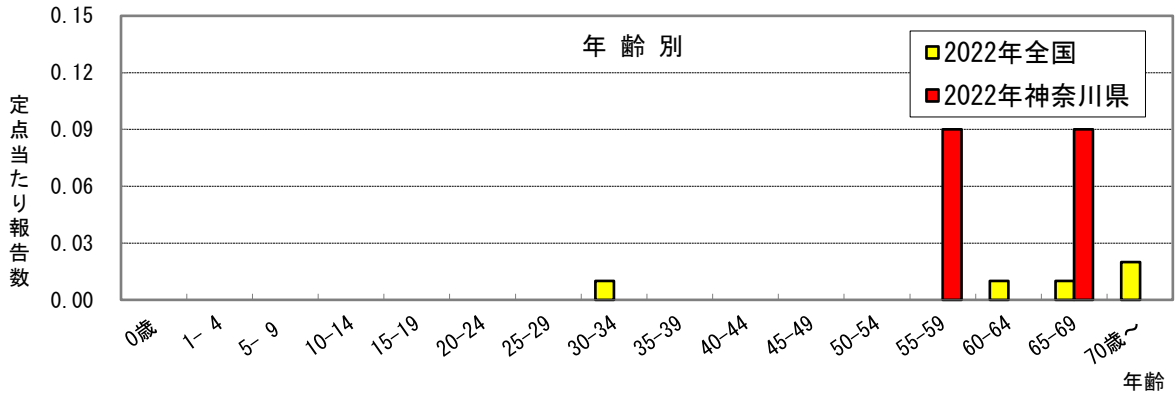


【クラミジア肺炎(オウム病を除く)】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

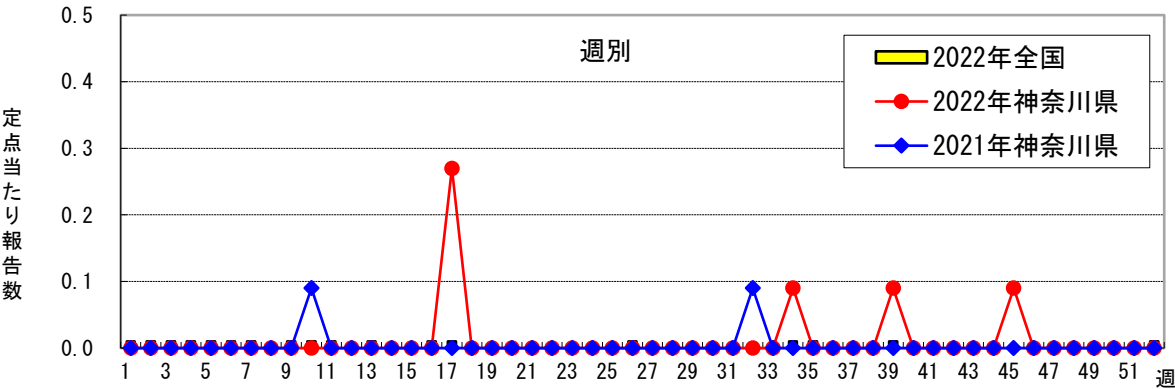


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

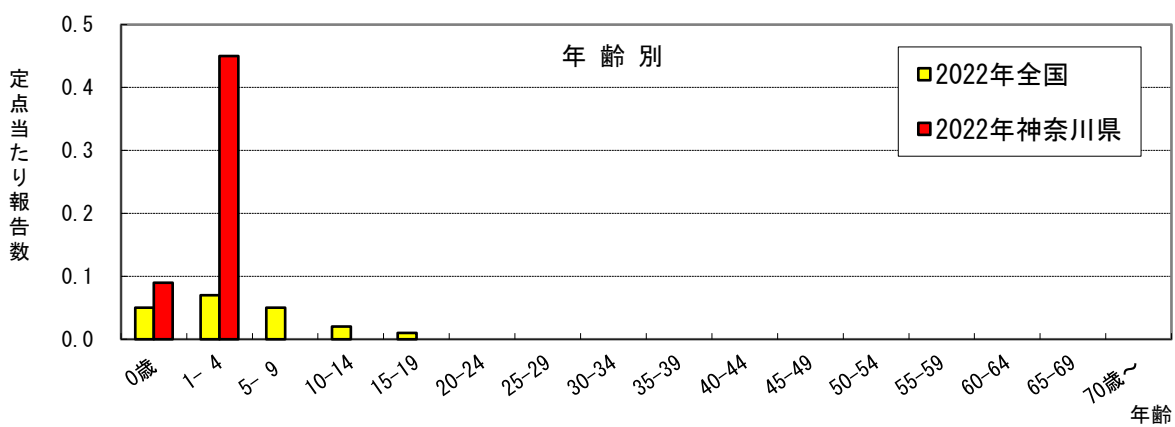


【感染性胃腸炎(ロタウイルス)】

○ 神奈川県週別推移(2021～2022年)

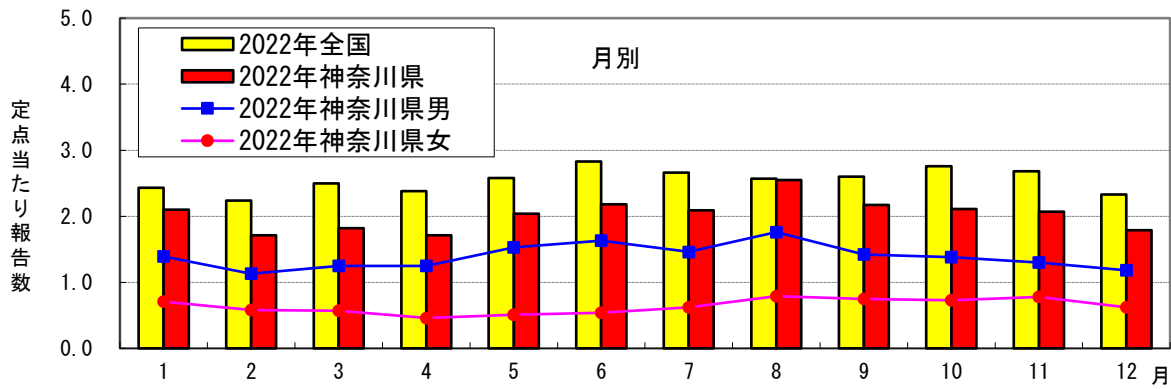


○ 年齢別定点当たり報告数(2022年)

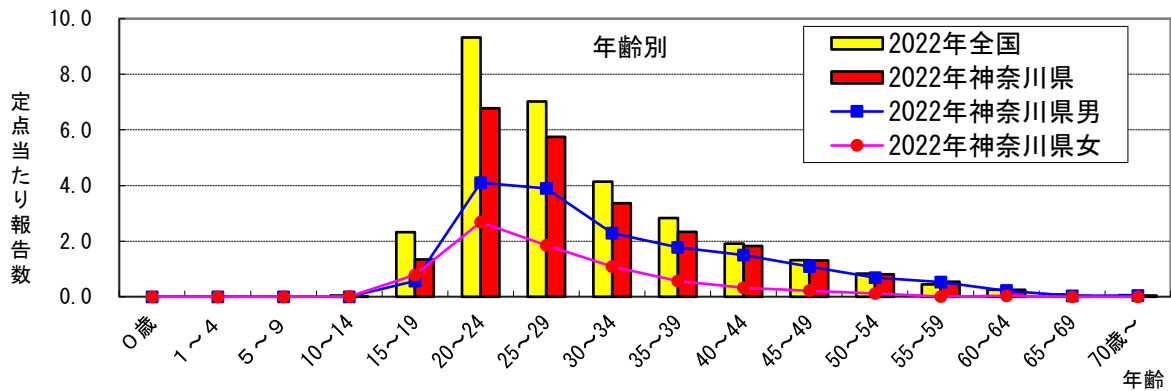


【性器クラミジア感染症】

○ 神奈川県月別報告数(2022年)

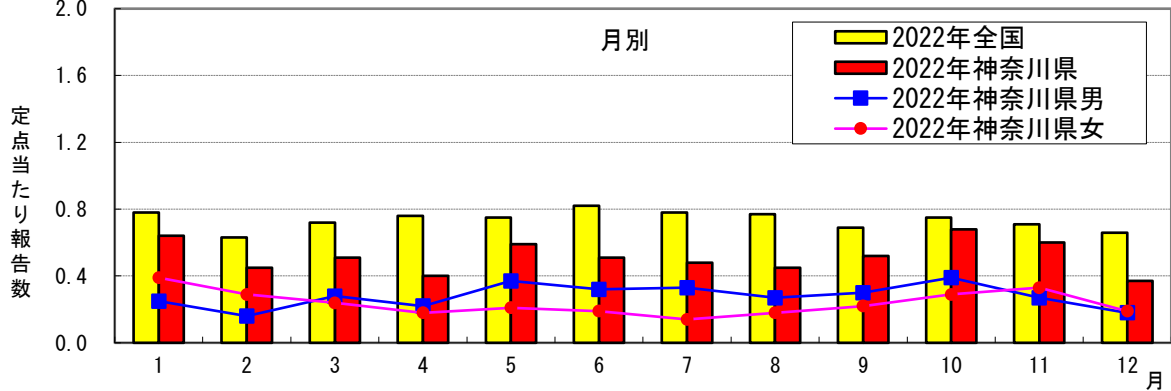


○ 神奈川県年齢別報告数(2022年)

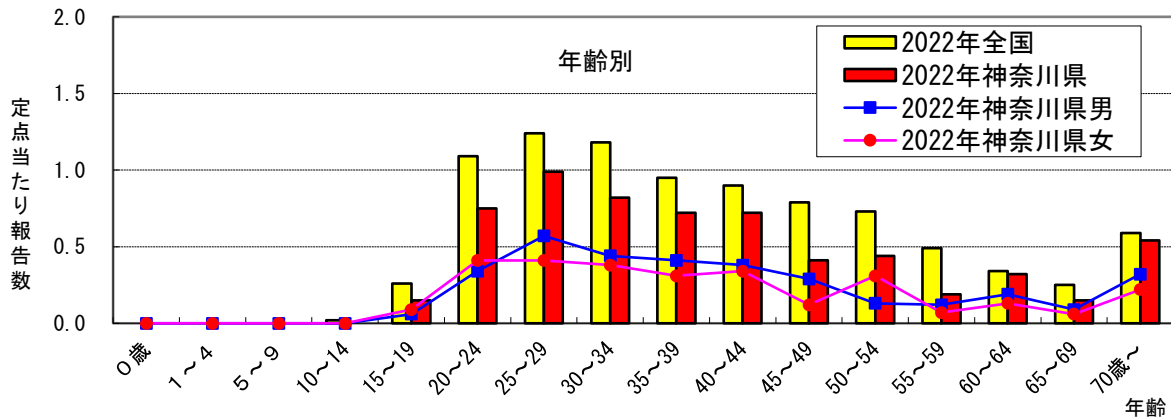


【性器ヘルペスウイルス感染症】

○ 神奈川県月別報告数(2022年)

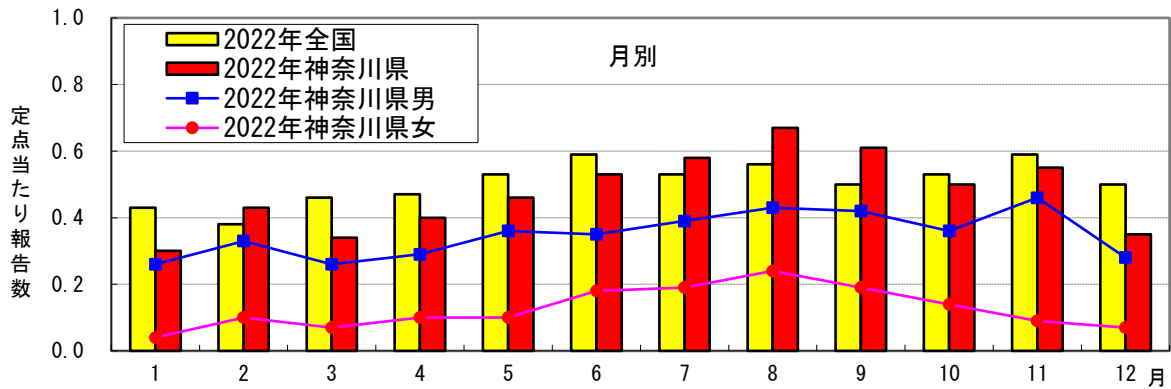


○ 神奈川県年齢別報告数(2022年)

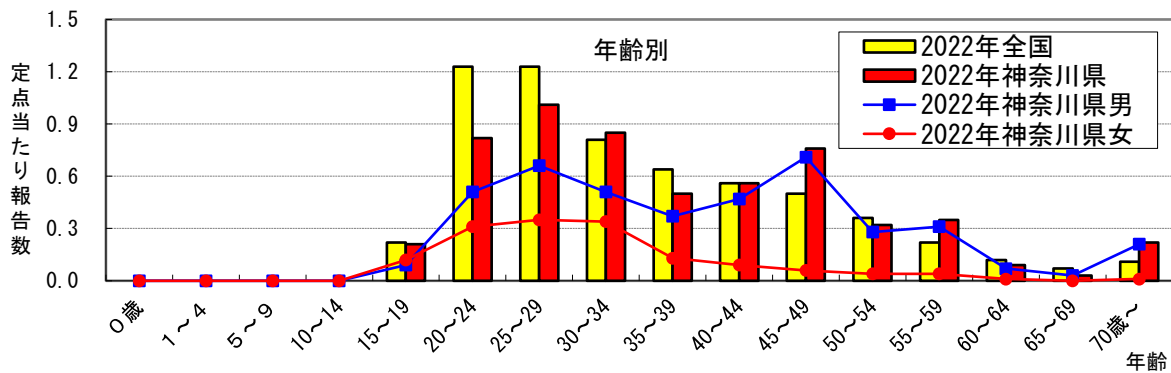


【尖圭コンジローマ】

○ 神奈川県月別報告数(2022年)

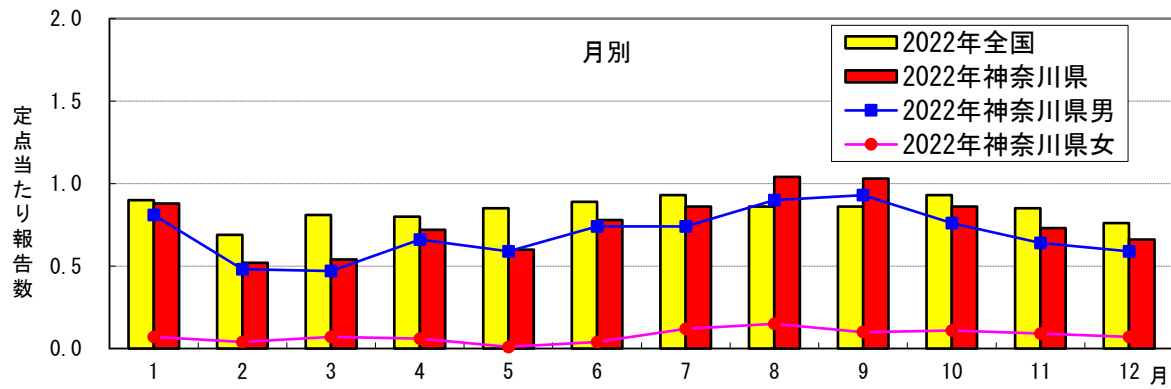


○ 神奈川県年齢別報告数(2022年)

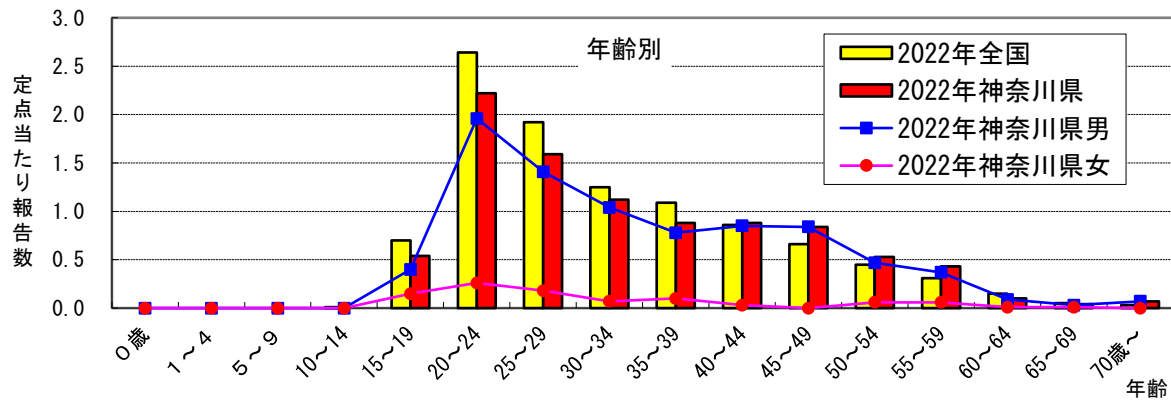


【淋菌感染症】

○ 神奈川県月別報告数(2022年)

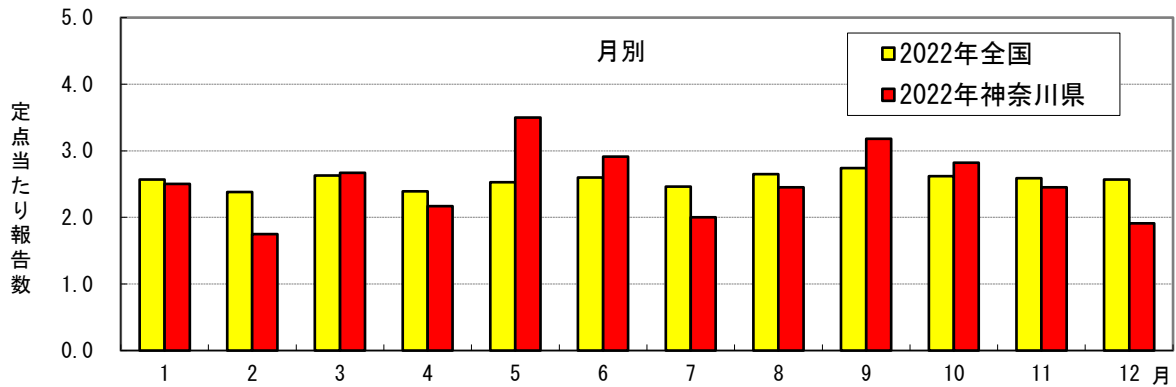


○ 神奈川県年齢別報告数(2022年)

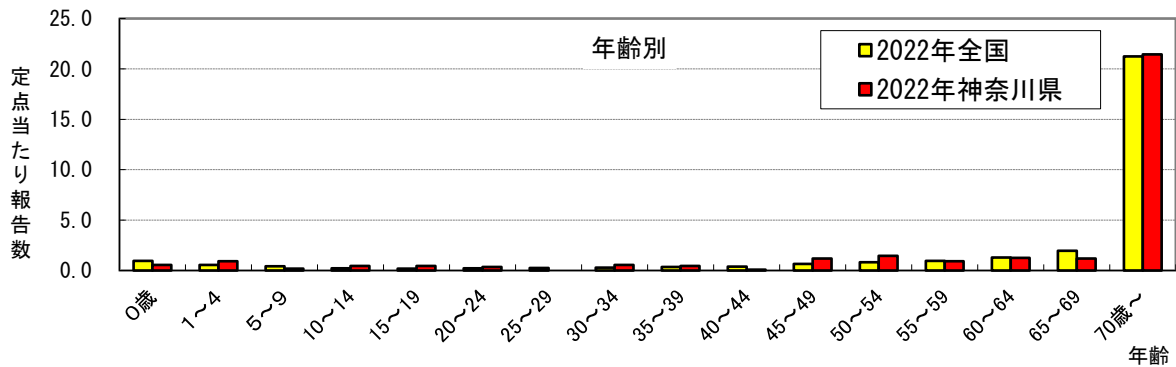


【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症】

○ 神奈川県月別報告数(2022年)

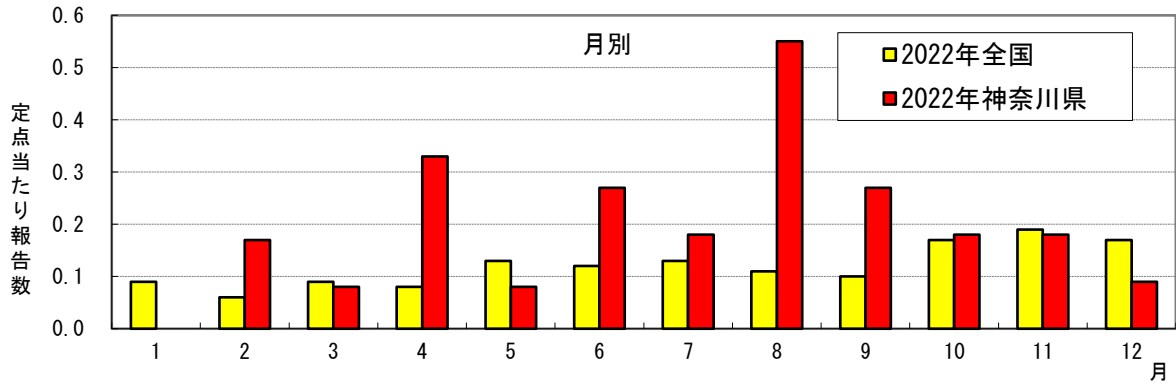


○ 神奈川県年齢別報告数(2022年)

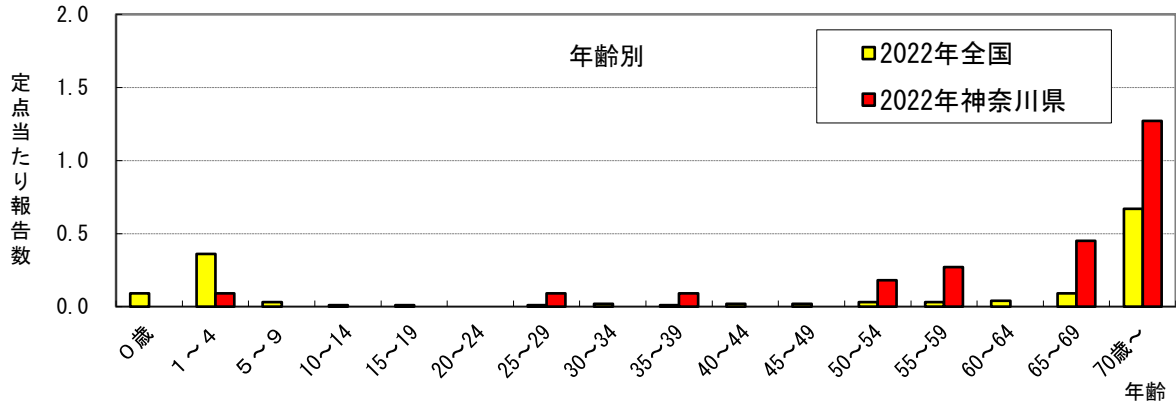


【ペニシリン耐性肺炎球菌感染症】

○ 神奈川県月別報告数(2022年)

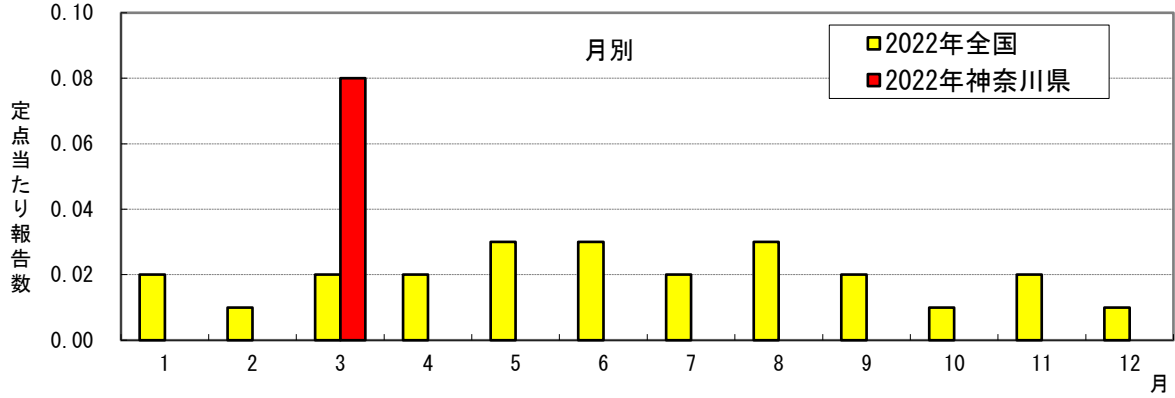


○ 神奈川県年齢別報告数(2022年)



【薬剤耐性緑膿菌感染症】

○ 神奈川県月別報告数(2022年)



○ 神奈川県年齢別報告数(2022年)

